

平成 31 年度愛知県立芸術大学音楽学部 一般入試試験問題 (楽典)

※問題用紙は解答用紙とともに試験終了後に回収します。 / ※受験番号は解答用紙に記入してください。

【問題用紙】

I. 以下の設問について調名を日本語で答えなさい。

- 1) ロ短調旋律短音階上行形の第 6 音を主音とする短調の属調の異名同音調は何か。
- 2) イ長調の上中音を属音とする短調の平行調は何か。
- 3) 変ホ短調の下属音を下中音とする短調の下属調は何か。
- 4) ある調 (原調) の属調の IV の和音がニ長調の II の和音であるとき、ある調 (原調) は何か。

II. 譜例 A、譜例 B (別紙) は、それぞれある有名な弦楽四重奏曲の楽章冒頭部分である。譜例についての以下の設問に答えなさい。

- 1) ①~⑧の音程とその転回音程を答えなさい。ただし、複音程は単音程に直して答えること。
- 2) A~F の四角で囲まれた部分の和音の種類を答えなさい。(例: **長三和音**)
- 3) 譜例について説明した以下の文章の下線部分に最適なものを下枠から選び、その記号で答えなさい。ただし、同じものを重複して使用してもよい。

譜例 A は、自由なフーガ形式による主題の ア 部であるが、このように各パートが独立して動く音楽の形態を イ という。また譜例 B のようにメロディがハーモニーによって伴奏されるような音楽の形態を ウ という。

弱起と訳される エ でリズム的に柔らかく開始される譜例 A では、曲頭部分に嬰口音が現れることから、この開始部は和声機能的にはトニックではなく オ であることがわかる。その後もトニックへ長く落ち着くことはなく、不安定で流動的な和声の進行となっている。この楽章は、寂寥感や悲痛などという言葉で評されることが多いが、そのような感覚を生む理由の一端は、抑制されたリズムと音域などとともに解決を引き延ばし不明瞭化するこのような和声進行にあるとあってよい。この曲は 1826 年に作曲されているが、ハイドン以来このジャンルにおいて極めて重要な仕事を成した カ の最晩年の作品である。一方、譜例 B の作曲者である キ は、1833 年にサンクトペテルブルグで生まれているが、民族主義的な芸術音楽の創造を目指した作曲家の集団である ク に属している。譜例 B はこの楽曲の第 3 楽章で、ケ という意味の Notturmo という表題が付されている。冒頭チェロに現れる有名なメロディは、入念な コ や装飾音が施され、小さな節に満ちていて「歌う」要素が溢れている。この点極めて抑制的な譜例 A とは対照的である。曲は主和音である サ dur の I 度の和音で始められ、メロディは主音から徐々に下降してゆくが、バス音はハーモニーの進行とは独立して主音が 3 小節目 シ され、4 小節目には ス の機能を有する セ の和音に行き着く。その後 5 小節目では一時的に II 度調である ソ moll に進むが、その一拍目の和音の種類は タ の和音である。曲頭からの 8 小節目の間、チ 機能の要の音である ツ 音は第 4 小節目のヴィオラパートには現れるが、8 小節目ではその使用は避けられている。この機能を明瞭には感じさせない和声、節回しの効いたメロディと相まってえも言われぬエキゾチックな雰囲気醸し出している。

- | |
|---|
| 1.掛留 2.逸 3.保続 4.導 5.下屬 6.倚 7.刺繡 8.上主 9.展開 10.追拍 11.提示 12.変奏 13.VI 14.IV 15.D 16.E 17.h
18.b 19.A 20.モルデント 21.マルカート 22.アルペッジョ 23.アーティキュレーション 24.アゴーギク 25.ホモフォニー
26.シンフォニー 27.モノフォニー 28.ポリフォニー 29.アウフタクト 30.イン テンポ 31.サブドミナント 32.ドミナント
33.ドッペルドミナント 34.減七 35.減五短七 36.長七 37.属七 38.スメタナ 39.マーラー 40.ハチャトリアン 41.ボロディン
42.チャイコフスキー 43.ムソルグスキー 44.バルトーク 45.リムスキー コルサコフ 46.ベートーヴェン 47.シューベルト
48.ブラームス 49.フォーヴィスム 50.原始主義 51.ロシア 5 人組 52.キュビズム 53.前奏曲 54.小夜曲 55.夜想曲 56.奏鳴曲
57.諧謔曲 58.組曲 |
|---|

- 4) 譜例 A の各パートをそれぞれ Violino I はソプラノ記号、Violino II はアルト記号、Viola はテノール記号、Violoncello はバス記号を用いて、短 2 度高く移調して記譜しなさい。その際、調号を用いること。また設問のために記された記号等を除き、原曲に書かれたダイナミクス等の記号も全て記すこと。

【譜例A】

Adagio, ma non troppo e molto espressivo

Violino I

Violino II

Viola

Violoncello

Violino I

Violino II

Viola

Violoncello

【譜例B】

Andante

Violino I

Violino II

Viola

Violoncello

cantabile ed espressivo 3

Solo

segue

segue

Violino I

Violino II

Viola

Violoncello